

救急救命学科 シラバスの変更一覧

学年	ページ	科目名
1年	17	薬理学

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	EM-1-PDR-01				
	●	●								
科目名	薬理学				単位認定者	柳澤 輝行		試験(筆記)	85 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	救急救命学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	5 %
						授業時間数	16 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	薬理学の基礎的知識を修得し、生体と薬物との関わりを理解する。総論では、薬物の作用機序、薬物体内動態、薬効に影響する因子、副作用及び薬物の取扱い、管理、投与方法について学ぶ。各論では、様々な疾患に用いられる代表的な治療薬について、作用機序、特徴、副作用を理解する。また、救急救命処置に用いられる薬剤や注意を要する常用薬、重要な静脈内投与薬について、それぞれの薬理作用、使用方法、注意点を学修する。									
到達目標	救命救急の現場に出る前の基礎的な内容を薬理学と病態の原理原則からも理解し身につける。									
学修者への期待等	事前に教科書を熟読して、練習問題に目をとおしておくこと。救急の現場で必須の中毒学は薬理学の関連領域であり、化学物質や有害物質に対するセンスも磨く。									
回	授業計画				準備学修				事前学修時間(分)	事後学修時間(分)
1	薬理学総論1【Chapter1】 作用機序、受容体、濃度反応曲線、情報伝達系				事前学修：作用機序：分子から細胞レベルまで、受容体、濃度反応曲線、情報伝達系				60	120
2	薬理学総論2【Chapter1】 治療機序、薬物動態、薬物療法、副作用 等				事前学修：治療機序：細胞から生体レベルまで、薬物動態、薬物療法、副作用、薬物の取扱い、管理、投与方法				60	120
3	末梢神経系に作用する薬【Chapter2】				事前学修：自律神経系薬総論、交感神経系薬、副交感神経系薬、アセチルコリン受容体、筋弛緩薬、局所麻酔薬				60	120
4	中枢神経系に作用する薬【Chapter3】				事前学修：中枢神経系薬総論、全身麻酔薬、抗不安薬、抗てんかん薬、鎮痛薬、抗精神病薬、抗うつ薬、抗躁薬（気分安定薬）、パーキンソン病・認知症治療薬、薬物乱用				60	120
5	循環器系に作用する薬1【Chapter4】				事前学修：循環器系概要、動脈硬化、血管拡張薬、脳血管疾患治療薬、高血圧と降圧薬、虚血性心疾患治療薬、心不全治療薬				60	120
6	循環器系に作用する薬2、体液・血液系に作用する薬【Chapter4】				事前学修：抗不整脈薬、利尿薬、体液と輸液、貧血治療薬、造血因子、止血薬、抗血栓薬				60	120
7	呼吸器系に作用する薬、消化器系に作用する薬【Chapter5】				事前学修：抗ヒスタミン薬、気管支喘息治療薬、胃・十二指腸潰瘍治療薬、催吐薬、制吐薬、腸に作用する薬				60	120
8	代謝・内分泌系疾患治療薬【Chapter6】				事前学修：糖尿病治療薬、脂質異常症治療薬、肥満治療薬、痛風治療薬、骨粗鬆症治療薬、視床下部・下垂体ホルモン				60	120
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> 該当なし <input type="checkbox"/> 該当あり：キーワード（ ）									
教科書	『休み時間のワークブック薬理学』柳澤輝行／小橋史・著、講談社									
参考文献	『救急救命士標準テキスト』救急救命士標準テキスト編集委員会、へるす出版 「なぜ薬理学を学び、教えるのか」URL <a href="http://hdl.handle.net/10097/53883">http://hdl.handle.net/10097/53883</a> 、柳澤輝行									
備考										

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)